

## 沖縄通信 サウンドデモ「音楽に乗せて基地反対」

富田英司（宜野湾市在住）



オスプレイ配備と米兵による凶悪事件に翻弄された沖縄。この1年の闘いの集大成をめざし、オスプレイの強行配備や相次ぐ米兵による凶悪犯罪に対する怒りを、音楽や踊りで表現する「怒りの御万人大行動（うまんちゅパレード）」が12月23日、宜野湾海浜公園屋外劇場で開かれた。（写真）

いつもの形通りの集会（労働組合）スタイルでなく、幅広い世代が気軽に参加できるように企画されたこともあり、約3000人が参加しほぼ屋外劇場が満杯になった。

11時からの前段のイベントでは、久しぶりに「でいご娘」さん（4人姉妹の沖縄民謡グループで、父・比嘉恒敏さんの遺作「艦砲ぬ喰えーぬくさー」を歌う）が登場

し喝采を受ける。ト리는沖縄歌手を代表する海勢頭豊さん（「月桃の花」や「きせんばる」等が有名）が歌う。

12時から集会が始まり、主催者を代表して崎山嗣幸沖縄平和運動センター議長が「来年も配備されるであろうオスプレイを阻止し、米軍基地撤去まで断固として頑張っていこう」と挨拶。普天間爆音訴訟団の桃原功さんと辺野古へり基地反対協の安次富浩さんが元気に地元の闘いを報告。続いて来賓の国会議員の挨拶、厳しい衆院選を闘い抜き当選した社民・照屋寛徳さんと共産・赤嶺政賢さんの挨拶に対する拍手と声援は一段と高かった。最後は参議院の社大党・糸数慶子さんと社民・山内徳信さんが

名調子の挨拶。

13時からの集会後のデモは「サウンドデモ」(行進の列を10ブロックに分け、県内外で活躍する音楽家が各ブロックの先導車両に乗り、ロックやフォーク、クラブミュージックや民族音楽などを演奏しながら)米軍普天間飛行場大山ゲート前の広場まで約2キロを行進した。参加者たちは平和を願う音色の下で、リラックスした様子で行進し、オスプレイ配備撤回や米軍基地撤去を訴えた。

突然のにぎやかなサウンドデモに遭遇した沿道の人たちも「音がしたので娘の手を引いて表にでたが、こういう雰囲気デモなら参加しやすいと思う」と、好意的反応が多かった。

年配の参加者たちも「こんなに楽しいデモはなかった。これこそ平和への歩みだ。基地がなくなるまで頑張れるという気持ちになった」「75年の人生で、こんな楽しいデモは初めて。音楽を鳴らしながら、来年も基地反対の声を上げていこう」など喜んでいた。

オスプレイ配備反対の運動は、6月17日の「宜野湾市民大会」から始まり、7月より米軍普天間飛行場大山ゲート前でのテント村座り込み抗議行動が始まり、その後野嵩ゲート前での抗議行動も始まり、9月

下旬にはゲート封鎖をやり遂げるが県警機動隊の暴力排除を受ける。それでもオスプレイ配備撤回をめざし大山・野嵩の二カ所でのゲート前抗議行動を続け、7月から12月末まで約6ヶ月オスプレイ配備の反対運動を続けてきた。

今年も、1月7日から大山ゲート前(朝6時?)と野嵩ゲート前(朝7時?)二カ所での抗議行動を開始した。

戦後67年間、復帰前も復帰後も世界最強の軍隊である米軍占領軍(米軍機事故や米兵犯罪など)とずっと闘ってきた沖縄県民、今も基地ゲート前で闘っている沖縄県民、これからも諦めずに闘おうとしている沖縄県民。でも、彼ら彼女たちは暗くない、笑顔で明るく闘う!決して闘いをあきらめない闘いを続ける。そんな人たちから学ぶことは多い。

12月23日の当日、神奈川でもオスプレイの配備反対や米兵による凶悪事件を糾弾する「怒りの神奈川行動」が取り組まれ、約800名が結集し「オスプレイ配備撤回」「オスプレイはアメリカに帰れ」「低空飛行訓練反対」などを訴え、米軍厚木基地に対するデモ行進をした。今後、こうした沖縄と本土との連帯行動を作り上げていく必要がある!(草の根運動会員)

あかしあ法律事務所

弁護士 **平山 知子**

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-14-5  
新宿KMビル602  
TEL03(5369)0790 FAX03(5369)0791  
E-mail:hirayama@acacialaw.org

沖縄・日本から  
米軍基地をなくす草の根運動

共同代表 **小湊 忍**

日本ユーラシア協会大阪府連常任理事  
大阪憲法会議理事

〒160-0022 大阪府大東市深野北1-6-54  
TEL072-862-3003  
E-mail:yuzukomike@yahoo.co.jp